

【9月】社会科授業づくり講座

講師：山本政俊先生

参加者：35名（学生：13名 教員：16名 実行委員：6名）

講師：山本先生より

3連休のど真ん中、秋晴れの日曜日なのに、やりくりして参加していただいたみなさん、本当にありがとうございました。

うちの大学でもオンライン授業が行われていますが、基本オンデマンド資料配信型なので、ライブで、ZOOMによるオンライン授業をしたのは、今日で2回目でした。

前は某大学におじゃまして40分、今回はたっぷり2時間でした。

欲張りで盛りだくさんでごめんなさい。もっと絞り込めばよかったですね。

オンラインは顔が見えず、みなさんの反応がつかめないのが、一方的にお伝えするだけになってしまい、聴講するほうの負担もハードではなかったかと推察します。

お伝えしたかったことのエキスは

1. 自分が何のために何を伝えたくて教師になったのか。なろうとするのかを常に考えましょうということ。私の場合は、教材セレクトの視点は、人類の価値ある遺産である自由と人権と民主主義であり、平和な社会の建設に寄与できる主体形成につながる社会科授業です。

2. 学校のあり方や社会科の授業に、教育行政がいちゃもんつけてくることがあるから、それをどうかわして自分のやりたいことを通していくかということ。それに負けない理屈のバックボーンとしなやかな感性と仲間とつながる力が大切ということ。教授の自由を自ら手放すことなく、自らの星座や座標軸は自ら配置していいんだということ。

3. 授業は問題提起であり、教材の質。資料の質が発問につながるということ。

子どもから問いが生まれる仕掛けや題材提示の仕方があるということ。

これが「主体的」授業の出発点

4. なぜ「対話的」でなければならないのか。

民主主義社会を成熟させるためには「対話」は不可欠の条件。

「対話のための対話」に意味がある。対話をしている間は戦争を防ぐことができるのです。

民間教育研究団体は、今やどこの団体も退職者や高齢者が支えている実態。

それだけに若い人や学生が参加するとおじさまやおばさまたちは、もうそれだけで嬉しくてしょうがない。そして「正論」を語り、こうでなければと力説する。自分も含めての反省なのですが、おじ様たちは、時にそれは言葉の暴力になるかもしれないということは知っておいたほうがいいのです。知らない言葉が出てくると、それだけで人の心のシャッターは閉じられてしまう。それをわかっていない自分を責めて自分がみじめになる。自分だめだなんて、若い時の僕はそうでした。それから若い人の反応を知りたいから、発言を求められること。お互いの距離感が狭ければいいのですが、見ず知らずの人からいきなり振られて自分に語るものがないと時に苦しい。今日僕失敗しました。あとで時間をかけてもう一

度反芻することで、そういうことだったのねと自分の脳みそに刻まれたり、あとで、私と同じことを誰かが言った時に、重なりがあれば深い学びになっていくのだと思います。

ある研究団体でうちの学生に案内したら、結構な人数参加してくれたのですが、発言は求められるわ。会報への掲載で原稿は書かされるわで、ハードルが高すぎてその後、その研究会には誰も参加しなくなってしまったのです。

やっぱり対面でやりた〜い。空気感がわかるし、非言語指示も伝わるので双方向で伝わる。さらに深掘したい人は山本と友だちになってメールやLINEでやりとりしましょう。Facebookでもほぼ連日情報発信しています。良かったら友だち申請をお願いします。

<参加者から感想>

- ・有田和正氏を紹介してもらった点は自分にとっては大きかった。(最近、個人的に小学校実践に注目している。)
- ・山本先生の授業については、歴教協のメーリングリストに載るメッセージを読んで、いつも感動しています。「授業は謎解き」という明快な授業の作り方を語っていただき、ありがとうございます。
- ・私が履修している社会科教育法の後期授業事前課題として授業づくりが設定されていたため、授業づくりにおける発問や板書の重要性を学ぶことができ、とても勉強になりました。今回の講座を課題に生かし、少しでも満足のいく授業がつくれるようにしたいと思います。
- ・満を持しての山本さんの登場！これまでも、山本さんのたくさんの実践を伺ったり、読ませていただいたりしてきましたが、「授業づくり職人」とひそかに(しかも、勝手に自分だけで)呼んでいる山本さんから、授業づくりに焦点を絞ったお話を伺えるのが、とても楽しみでした。
お話の中で、自分の教え子のことを確実に「生徒さん」と呼んだり、チャットのつぶやき、意見を一つも漏らさずに受け止めようとする姿勢が、授業づくりすべてに通じているのだなと感じました。「人数が多いので、読めなかったらすみません」ではなく、「全部読みたいから、読めてなかったら言ってください」と大学生&大人を相手にしても丁寧に、大切に向き合うところにジンときて、自分を振り返りました。
- ・資料、ありがとうございました。
名人山本先生のお話を聞き、あと5年、初心に帰り頑張りたいと思いました。
- ・初めてこのような勉強会に参加させていただき新鮮に思うと共に、今後教員を志す上で重要な心構えや考え方を知ることができて嬉しく思います。
特に「問いたい情報を隠す」とことと教材の見せ方を工夫することが印象的で、今後これらを意識して指導案の作成を行い、生徒にとって楽しく面白い授業づくりが出来るようになりたいと強く感じました。
先日はありがとうございました。
大学3年の夏季休暇中に、授業づくりの仕組みや工夫の仕方を学ぶことができ、勉強になりました。今後の授業づくりにおいて、生徒に謎解きをさせられるように意識していきたいと思います。
また、授業づくりの仕組みを実際の資料を用いて丁寧に説明してくださったため、理解することや、実践に向けてのイメージトレーニングをすることができた気がします。

そして、途中で無理に発言をさせないという点で山本先生の現代におけるハラスメントに対する意識の高さを感じ、社会的な課題であるハラスメント防止への取り組みにつながると感じました。

先日はお忙しい中、貴重なお話をしてくださりありがとうございました。

- ・先日はありがとうございました。教育実習中にこのようなお話を聞くことができ、とても勉強になりました。特に、山本先生が何度かおっしゃっていた、「授業＝謎解き」という考え方が、とても面白く感じられ、次回の授業に活かしたいと思いました。授業というと、教師が生徒にあれもこれも教えなくては、と考えがちですが、教師は教える役割ではなく、学ぶ側になぜ？を組織し、もっと知りたいを醸成する役割なのだ、ということ意識した上で授業を作ってみると、私自身も楽しく授業づくりができた気がします(なかなか難しかったです…!)。次回の生徒の反応が楽しみです。
- ・今回の講座では我々、社会科教員の役割とは何かを考えることができました。特に山本先生の「私の授業づくり 10 か条」と「スタンダードに抗う 12 か条」が参考になりました。やはり、教員自身も学び続ける必要性を感じました。総じて、来年度から高校で始まる新科目「歴史総合」・「世界史探究」・「日本史探究」に向け、今回の講座テーマである「自ら問いを立て、探究していく生徒を育てる授業」を日々の授業で心がけ、授業実践・教材作成報告できる「研究的実践者」を目指していきたいと思います。
- ・9月講座開催有難うございました。社会科・地歴・公民科に関わる発問作り非常にためになりました。私は退職後郷里で期限付き講師をしています。現在社会の職が見つからず、他に持っている数学の免許で中学数学教員をしています。また中学社会・高校・地歴・公民の授業を担当する機会があれば、ぜひ参考にしていきたいと思っています。
- ・「問いの共同決定、「調べろ～」と投げがちな探究への重要なキーワードだと思いました。重要な社会的課題を子どもたちと共同決定し、一緒に学び合えたら、こんな楽しいことはないだろうなと想像しながら高揚しました。
- ・講座の中で、本当に多くの学びを得ることができましたが、特に発問の仕方については、問いたい情報は隠すといったことを実際に受けることで、理解が深まりました。この発問の仕方を教材作成の中で、真似ようと思いました。
- ・山本さんのお話を伺っていて「授業づくりの要素全てがここにある」という感じがしました。私はもう教員を退職してしまっており、もう授業はできませんが、近いうちに中学生に「子どもの権利」のお話をさせていただく機会を与えていただいたので、その授業づくりに、ぜひ山本さんからわったことを生かしたいと思っています。そんなにたくさんのことはできませんが「資料はそのままではなく、問いたい情報は隠す」ということ、「どんな発問でもいいから最初はとにかく発問をできるだけ多く作る。なごつまみ食いですが、早速「授業研究」を始めたいと思っています。

- ・授業を作るという課題をしているのですが、行き詰ってしまっていました。ワークシートや穴埋めという短絡的なものに陥ってしまったり、生徒の興味をひくことが難しかったりしたからです。今回の講座では、「発問」に重きがおかれていました。自分の授業案を発問に着目して、ブラッシュアップしていきたいと思います。一個のいい発問を最初から狙うのではなく、何問も出していく中で必要なものを見極め、そこから資料収集なども行っていきたいです。
- ・「教師が教たいこと」を「子どもが考えたいこと」に転化するということのイメージが最初はよく分かりませんでした。ですが、講座の中で、山本先生の発問に自分自身が揺さぶられたり、資料提示の工夫を知る中で、学習者が自ら問いを持ち、考えたり調べたくなったりする感覚がよく分かりました。
- ・山本講座。よかったです。教師の原点・授業づくりの基本を改めて学びました。私は、いい加減な授業をしていますので、山本先生の姿勢を学ばんとなあとと思います。よく本を読んで学んでみえますね。法則化の書き方、授業の仕方なども取り入れ、いいものはいいと自分の中に消化して実践してもらえます。
- ・話の中に Empathy (エンパシー) 「誰かの靴を履いてみる」という言葉がありました。事実を知ることが大事なことであるとともに、人々の経験したことを学ぶことが出来るのも社会科の魅力の一つなのかなと思います。事実を学ぶことで「すごいな！」や「かわいそう」、「戦争は二度と起こしてはいけない」と思うことは大事であるからこそ、そこから自分の周りや生活からできることを探すなど、社会とのかかわりが生まれてきます。「知ること」で、さらに出てくる生徒たちの中にある疑問や考えを大事にしていきたいと思いました。
- ・山本さんがどんな経緯で社会科の教員になられたのか、どのような経歴でこれまで授業をされていたのかがわかり、とても刺激を受けました。
私は、現在、社会科の教員を目指しています。今回の講座で、社会科がどんな教科なのか、もう一度考えるきっかけになりました。多くのことに関心をもち、問題意識をもち続けながら、自分自身の学習、研究に繋げていきたいと考えました。視野を広く持ち続けたいです。
早速、地元の図書館で取り寄せ、有田和正さんの本を読んでみました。生徒に対しての教材の隠し方、提示の仕方、発問方法など勉強になりました。そして、読んでいて授業のおもしろさ、臨場感が伝わりました。他にも読んでいきたいです。

講座を通して (司会者：宮下)

今回は、たくさんの学生さんや様々な校種の先生方にご参加いただき、有意義な時間を一緒に共有することができたことにとても感謝しております。

近年の授業づくり講座の中でも、30名以上の参加者が集まったのは山本先生のパワーのおかげであると強く認識しております。本当にありがとうございました。

たくさんの参加者の方々の意見や質問を拾い切れなかったことは、司会の不徳の致すところでありませぬ…。申し訳ありませんでした。

今回は、授業づくりにおける発問の工夫や山本先生の教師としての思いや考え方を学ばせていただきました。途中、山本先生から発問の工夫を考えるために簡単な演習(クイズ)についてみんなで考えたり、参加者の方それぞれが、自分たちのそれぞれの立場で意見や質問を出しあったりしながら、学びを深められたことは、今後の授業づくりにおいて大いに役立つことは間違いないと思います。教えていただいたことを活かして試す、「TRY&エラー」の繰り返しこそ授業づくりの醍醐味ではないかと改めて感じることができました。本当にありがとうございました。

次回の授業づくり講座も、是非たくさんのご参加をお待ちしております。よろしくお願いいたします。